

令和5年4月20日

令和4年度研究開発報告

住所 広島市中区基町9-42  
管理機関名 広島県教育委員会  
代表者名 平川 理恵

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発実施内容を、下記のとおり報告します。

記

1 事業特例校名・類型

学校名 広島県立吉田高等学校  
学校長名 久保 薫  
類型 全日制

2 令和4年度研究開発実施概要

本校では、新学習指導要領の「総合的な探究の時間」を視野に入れ、令和元年度より新たにスタートした探究科において「総合的な探究の時間」を「課題探究」と称し、探究的な学習を実施してきた。1年次に「産業社会と人間」、2～3年次に「課題探究」を設置し、学年を越えたテーマ別の探究グループによる学習活動を開発した。また各探究テーマに係る全ての教科等の関連を明確化し、テーマ別のカリキュラムを作成することにも取り組んだ。

(1) 1年次「産業社会と人間」計画

「探究的な学びの基礎づくり」をコンセプトに、大きく2期に分けて実施した。前半(4月～7月)は2年次以降の選択科目受講に備えたキャリア学習、後半(9月～3月)は探究的な学びの基礎的カリキュラムを展開した。

(2) 2・3年次「課題探究」計画

「医療」「教育」「伝統芸能」など、自らが選択したテーマについて、ゼミ形式で授業を展開し、決定した探究テーマに関する探究の実践を行うカリキュラムを構築した。特に1学期は、2・3年生合同で取り組む時間を設け、3年生が同じ探究分野に所属した2年生に対して、自身やグループに係る知識の伝授等を行い、2年生の課題探究が円滑に進むようアドバイザー的役割を担うという縦の関係を創り上げることを目標とした。

また、11月には「道の駅三矢の里あきたかた」にて「吉田高等学校『みつや学』フェスタ」を開催し、地域の方々に対して、課題探究の内容に係る中間発表会を行った。特に今回は、「キ

(別紙様式5)

「フェスタ」と称して3～5歳の幼児を対象に、自然科学ゼミの「科学実験手品」や医療ゼミの「手話歌を歌おう」など、それぞれの探究活動の成果を生かした活動を通して、地域の様々な方と触れ合い、生の声に耳を傾けながら自分たちが暮らす安芸高田市の良さを学ぶことができた。

3 教育課程の特例の活用 (□で囲むこと)

- ア 学校設定教科・科目を開設している  
イ 教育課程の特例の活用している

4 コンソーシアムについて

(1) コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
吉田高等学校	校長 久保 薫
安芸高田市地方創生推進課	課長 高下 正晴
安芸高田市立吉田小学校	校長 吉貞 至誠
安芸高田市立吉田中学校	校長 大里 剛
広島大学大学院教育学研究科	准教授 吉田 成章
J A 吉田総合病院	事業局長 森友 俊文
社会福祉法人清風会	所長 渡 寛幸
社会福祉法人ちとせ会特別養護老人ホーム百楽荘	施設長 増本 義宣
広島北部農業協働組合	総務部長 後藤 隆
広島県教育委員会高校教育指導課	課長 木村 剛毅

(2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和4年6月24日	ア 令和4年度学校経営計画について ・本年度の学校経営計画について意見交換を行った。 イ 学校の魅力化とカリキュラム開発について ・地域との協働による高等学校教育改革推進事業について意見交換を行った。 ウ 今後の学校運営について ・地域との連携の方法等、今後の取組について意見交換を行った。
令和4年11月2日	ア 令和4年度自己評価シート(中間評価)について ・教頭、総務部主任が令和4年度学校経営目標における中間評価について意見交換を行った。 イ 学校の魅力化とカリキュラム開発について ・地域との協働による高等学校教育改革推進事業の進捗と学習成果について意見交換を行った。 ウ 今後の学校運営について ・地域との連携の方法等、今後の取組について意見交換を行った。



(別紙様式5)

識等の伝授を行い、2年生の課題探究に係る活動が円滑に進むようアドバイザー的役割を担うことで、協働的に学びを深めつつ、「まち・ひと・しごと」と自分の生き方を重ねながら個人研究に取り組みさせることができた。

イ ポートフォリオとパフォーマンス評価

本校のポートフォリオは、総合的な探究の時間などにおける「探究ポートフォリオ」の他に、各教科で学期末毎に計3回作成する「教科ポートフォリオ」があり、指定事業開始時から一貫してこの2つのポートフォリオをパフォーマンス評価の軸に据えて取り組んできた。

蓄積されたポートフォリオを全職員参加の研修会において検証し、「資質・能力」及びそれらを評価するルーブリック、さらには実施回数などを総合的に議論し、次年度への改善策を見出すように組織的に取り組むことができた。また、「産業社会と人間」や「課題探究」において計画的に実施したパフォーマンス課題やポートフォリオを組織的に評価し、生徒自身の「資質・能力」への意識及びその成長の実感を調査することで、その授業における目標が明確になり、より目標・授業・評価が一体化したカリキュラムに近づけることができた。

ウ 研究開発の実施体制について

本指定事業の計画策定を通して、本校を核とした安芸高田コンソーシアムと、本校カリキュラムのグランドデザインを構築し、3年間を見据えて創り上げた本校独自の探究型学習を「みつや学」と名付け、体系的に整理してきたが、現在は本校アグリビジネス科で生産したブドウを用いたジュースの共同開発・販売や、「課題探究」成果報告である「みつや学フェスタ」といったイベントの開催など、地域のコミュニティ・スペースである「道の駅三矢の里あきたかた」との連携が深まっている。この連携強化により、道の駅内に学校紹介用の常設展示スペースを提供して頂いたり、地域の人材を道の駅から直接紹介して頂くなど、コーディネートを設定しない形での新しい推進体制が構築されつつある。

エ 次年度以降の課題及び改善点

数値的な結果からは主だった課題が見られなかったが、教員からの意見集約においては様々な課題が浮き彫りとなった。特に「産業社会と人間」や「課題探究」など、みつや学担当者の中で本校赴任1～3年未満の教員からは、

- ・どのような力を付ければ「探究」の力が付いたと言えるのか、実感できていない。
- ・他の探究授業はどのようなことをやっているのかが見えにくく、自分の取組に自信がもてない。また前任者の取組についても資料だけではわかりにくく、情報交換の必要性を感じている。
- ・計画の段階で考えていたことと、実際に進めていく中でやりたいことにズレが生じる。
- ・外部の方から話を聴くなど「インプット」はある程度充実してきたが、「アウトプット」の機会がまだまだ少なく、生徒自身が自分の学びの質を実感できていない。

といった率直な意見が多く出された。年度ごとに教職員も変わっていく中で、どのように教員間の協働体制を構築していくかが大きな課題である。

(別紙様式5)

**【担当者】**

担当課	高校教育指導課	T E L	082-513-4994
氏 名	實森 満樹	F A X	082-222-1468
職 名	指導主事	e-mail	m-sanemori61882@pref.hiroshima.lg.jp